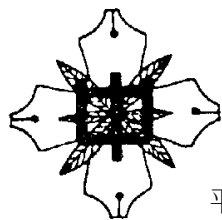


【教育目標】 将来をみつめ「学び考える力」「自他を大切にする心」「たくましく生きる力」を育てよう



十中だより

平成27年7月13日 発行 第4号

発行者:中野区立第十中学校

「7分間の新幹線劇場」

～それを支えるもう一つの秘密～

6月24日(水)、修学旅行初日。東京駅団体待合所での出発式を終え、新幹線14番ホームに移動した。

通常、東京駅始発の新幹線は、地方からの上り列車が東京駅着後、折り返しの下り列車として地方に向かう。我々が利用する「のぞみ209号」も、「前身」は浜松始発の上り「こだま702号」であり、東京駅到着後に折り返して、下りの「のぞみ」に“昇格”する。

ラッシュ時、新幹線の東京駅での停車時間は12分間、その内、乗客の乗り降りに要する時間は5分程度。したがって、残り7分間で車内の掃除を完了させなければならない。これを実現しているのが、「お掃除の天使たち」と呼ばれる清掃スタッフである。

まず、スタッフは担当する列車の到着3分前にホームに1列に整列して待機する。列車が到着すると、降車するお客さんに「お疲れ様でした」と丁寧な声をかけ深々とお辞儀をする。

客の降車が終わるとスタッフは車内に入り、2.5mある車両を突っ切り、座席の下や物入れにあるゴミを集め、忘れ物の確認をする。そして、端で引き返し、全座席を進行方向に回転させ、引き出した100のテーブルすべてを拭き、同時に、もう一方の手でブラインドを上げ、窓枠を拭く。さらに、汚れた座席カバーを新しいカバーと交換し、床の掃き掃除もする。一方で、トイレ清掃も7分で済ませる。

清掃が終わると、スタッフはホームに再度整列し、乗車待ちのお客さん一人一人にこやかな表情で「お待たせしました」と声をかけ、再度一礼をし、次の持ち場へと移動していく。一連の動きは完璧であり、まったく無駄がない。

以前、フランスの国鉄総裁が東京駅の視察に訪れたことがあった。同総裁は日本の先端技術や運行システムにはそれほど驚かなかったのだが、清掃スタッフの見事なまでのチームワークの良さと、きめ細かなおもてなしに感動し、「全員をフランスにつれて帰りたい！」と溜め息を漏らしたという。

新幹線の折り返しという「舞台」で披露される華麗な神業と礼儀正しさは「7分間の新幹線劇場」と称されている。



お掃除の天使たち

ところで、外国のメディアが「新幹線劇場」について次のような感想を寄せていた。

『清掃スタッフのチームワークと熟練度は抜群だが、この全過程を7分以内に終わらせるうえで、もう一つ秘密がある。それは、日本の乗客である。彼らは座席周辺にゴミを残さないし、出たゴミをゴミ箱に捨て、あるいは、下車する際にスタッフが持っているビニール袋の中に入れる。だから、車内のゴミの量は極めて少ない。「7分間の新幹線劇場」を助演しているのは日本の乗客である』と…。

6月26日(金)、修学旅行最終日。3年生は京都駅発14時33分発ひかり524号に乗り込んだ。そして、同車内において2泊3日の最後の2時間37分を満喫した後の17時10分、東京駅14番ホームに到着した。

74名が、その後に同車内で演じられた「新幹線劇場」を見事に助演したことはいうまでもない。



成果を残し修学旅行終わる

前述の通り、6月24日(水)から26日(金)の2泊3日で修学旅行が実施され、生徒は法隆寺や東大寺、金閣寺や三十三間堂、清水寺など、長い間大切に守られてきた歴史的文化遺産を見学し、多くのことを学んできました。

特筆すべきは、初日の中野坂上駅チェックに始まり、全行程を通し時間を守って行動できたこと。特に、2日目の京都市内班行動では全班が17時00分の宿舎到着時刻を厳守。JTBの添乗員の方から、「京都市内1日班行動で全班が宿舎到着時刻を守った学校はあまり例がない。昨年から今年にかけては十中だけです」という言葉をいただきました。

時間を守ることは集団生活の基本。それが修学旅行で当然のように実現できたことは大きな成果です。ただ、3年生は今回、時間だけでなくルールやマナーも守って行動するなど修学旅行で多くの成果が見られました。何より、3年生74名全員が参加し、病気・怪我・事故もなく無事に帰って来られたことが最大の成果です。

保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

「修学旅行は青春時代の心の壁画である」と言われます。修学旅行が、3年生の心の中に思い出としてしっかり刻みこまれ、壁画のように、何年、何十年経過しようとも色あせることなく輝き続けることを願っています。



保育実習を実施

6月23日(火)、修学旅行前日に3年生は「中野たから幼稚園」で保育実習を行いました。

保育実習は家庭科「私の成長と家族」という単元として行われ、当日は、3年生が5～6人のグループに分かれ、園児たちの様子を見学・観察し、実際にふれあいを体験しました。

園の先生から、「同じ目線で会話をする」「指示は、易しい言葉を使ってすること」「たくさん褒めてあげること」などを教わった生徒は、それを忠実に実行しようと奮闘していました。しかし、園児の考えや行動を予測することが思った以上に難しく、「まるで違う生き物みたい!」という感想をもった3年生もいました。

3学年だよりには、「皆さんにも同じ時期があり、全く同じ道を辿ってきているのですよ?ここまで苦勞して育ててくださったご両親の気持ちを少しは感じる事ができたでしょうか。」との記載がありました。

3年生にとって保育実習が、生まれてから今日までの成長について考える絶好の機会となりました。



お兄ちゃんが手伝ってあげる

職場体験終わる

修学旅行実施期間中の6月24日(水)～26日(金)、第2学年は都内36の事業所において職場体験学習を行いました。

2学年だよりには、「2年生の先生方が事業所を巡回していると、事業所の方から、『生徒が大変積極的で、次はどうしたらいいですかと聞いてくれます。』とか、『仕事がとても早く大変助かりました。』など、多くのお褒めの言葉をいただきました」という内容で職場体験の様子について記載されていた。

2年生は職場体験の目的を理解し、どの事業所でも一生懸命に仕事に取り組んでいたようです。体験を終えた2年生は、各自で職場体験新聞を作成・発表を行ってクラス代表を決定し、代表発表会を行います。

一方、職場体験期間中、学校生活上のルール違反をしてしまった生徒もいたようで、それが後日発覚し、学年の先生から指導を受けました。(学年だより参考)

「失敗をそのままにしておけば失敗だが、失敗を次に生かせば、その失敗は成長につながる」ということを胸に刻み、今後の学校生活を送ってください。

今後の2年生の成長に期待しています。



入荷食品を棚に陳列します!

食育の授業を実施

6月25日(木)、第1学年は多目的室において株式会社DOMEより管理栄養士平林沙織さんをゲストティーチャーにお迎えし、本校船元栄養士と一緒に食育の授業を行いました。

今回の授業は、「食」は「人を良くする」と書くように、人が生きていくうえで「食」がどれだけ大切であるかを理解することを目的に行われました。

授業はパワーポイントを用いて生徒が理解しやすいように工夫されていました。授業後に「給食がバランスよく作られていることがわかった。これからの給食の時間は、頭の中で(三色食品群の)グラフ分けをしながら食べてみようと思う」とか、『『氣』という漢字をはじめて知った。お米もきちんと食べようと思う』という感想を持った生徒もいました。

今回の食の授業が、生徒が正しい食の選択を行い、健康な体と心づくりに生かされることを願っています。



「社会を明るくする運動」推進コンサート

前号でお知らせした通り、7月2日(木)15時30分より「社会を明るくする運動」を推進する活動の一環として、中野区東部地区・弥生地区推進委員会主催の「坂上DEいきいきコンサート」が開催されました。会場のサンブライト広場には十中の生徒及び保護者の方、地域の方が大勢集まり、各団体の演奏に聴き入っていました。

十中は、同コンサートの最後に吹奏楽部と和太鼓部が演奏を披露し「社明運動」を盛り上げました。両部とも1年生は今回が大勢の前で演奏を披露する初めての機会ということもあり、最初は多少緊張した様子も見られましたが、演奏が始まると上級生と一緒に実に堂々と発表をしていました。両部の今後の活躍に期待しています。



<残食率ゼロキャンペーン>

先日行われた残食率ゼロキャンペーンにおいて、1年B組、3年A組、1年A組が上位クラスとなりました。3クラスは給食準備も早く、給食を残さず大切に食べていました。3クラスには、後日、校長から賞状が授与されました。